

CLOSE UP
クローズアップ



金城学院幼稚園

福岡麻央 教諭

1983年埼玉県生まれ。高校卒業後、金城学院大学人間科学部現代子ども学科へ進学し、幼児教育や心理学について学ぶ。2006年金城幼稚園の教諭となる。幼稚園教諭、保育士、認定心理士。

1人ひとりの子どもの個性を認め、 のばしていける保育者に

幼少のころから子どもが大好きで、憧れの幼稚園教諭の夢を叶えた福岡先生。

「1人ひとりの個性を認め、それをのばすサポートをすることが保育者の仕事」と話し、

子どもたちと一緒に遊んで「みんなに教えられることも多い」と自らも成長しているとおっしゃいます。

また「大きくなってもここで身につけた優しさを忘れないでほしい」と願い、日々園児たちを見守っていらっしゃいます。

I 子どもにとって一番大切なことを考える

私が幼稚園の先生になりたいと思ったのは、3歳のときです。昔から小さい子が大好きで、近所に住む自分より小さい子たちに積極的にお世話していたことを覚えています。成長するにつれて子どもの心理にも興味を持つようになり、幼児教育だけではなく心理学も学びたいと思い、金城学院大学を選びました。

大学での学びで印象に残っているのは、現代子ども学科の日比野直子先生の講義です。保育現場での子どもとのやりとりの話は大変興味深く、心に響きました。中でも「上手に保育をしようとするのは自分の保身。子どもにとって何が一番大切かを考える保育をすること」という言葉は今も私の礎となっています。子どもの前では取り繕わず、子どもたち1人ひとりを認めてその個性を大切にするように心がけています。

私が担任するほし組には年少児から年長児まで26人の園児がいます。日々園児たちと一緒に過ごしながら、子どもたちがいろいろなことを自分の力でできるようになるまで見守り、サポートするようにしています。先日、運動会で年長児のリレーがあったのですが、そのメンバーに走ることが好きではない子がいました。なかなか練習もできなかったのですが、みんなから出たのは

「運動会はみんなで一緒に走ろう」という言葉。園児たちはその子を決して責めることなく、よいところを認め、受け入れ、一緒に走ってくれることを待ったのです。運動会当日は無事全員で走ることができました。こうした姿を見ていると、子どもが苦手なことを自分の力で

克服できた感動もさることながら、あらためて大人の焦りや考えで物事をすすめてはいけないということを実感します。園での生活の主役は保育者ではなく、園児たちです。そのことを忘れず、日々みんなと共感しながら自分自身も成長していけたらと思っています。

II 保護者の思いにも応えられる保育者に

園児たちは縦割り保育という環境の中で、年下児への優しさや思いやりも身につけています。自分が年長児からお世話してもらったことを覚えていて、今度は自分たちの番とばかりにお世話をする姿を見ているととても嬉しいです。大人になって幼稚園のことを覚えている人は少ないですが、こうした優しさは心の礎となると思っています。

園児たちはこれから大きな世界へ

飛び出していき、さまざまなことを体験していきます。どんなときも、幼稚園で身につけた優しさや思いやりを忘れないでいてほしいと思います。またそれを大切な人と分かち合える人になってほしいとも願っています。私自身もこれからは1人の母として、保護者の方々の子育てや心配事にも親身に寄り添える存在になっていきたいと思っています。

福岡先生はどんな人!?

ほし組の保護者の方々に、福岡先生の印象を伺いました。すると「子どもたちと同じ目線で遊んでくれるので、子どもはみんな先生のことが大好きです」「子どもがとても好きなことが伝わってきます」という声が聞かれました。また「本当に子どもたちの面倒をよく見てくれます」「安心して預けられます」との声も多く、熱心な保育者としての姿も窺えました。

